

令和7年度 普及活動成果集



環境モニタリング装置の説明を受けるイチゴ生産者

福岡県朝倉農林事務所
朝倉普及指導センター

はじめに

令和7年度の朝倉地域は、まれに見る早い梅雨明けにより、異常な高温が続き果樹を中心に品質低下や収量減といった被害が発生しました。また、8月9日からの豪雨により冠水したネギハウスでは収穫不可能や播き直しといった被害が発生しました。更に、夏から秋にかけての高温・少雨は、管内で生産されている農産物に少なからず影響を与えています。

一方、平成29年7月災で甚大な被害を受けた朝倉市の中山間地域での農地の復旧は進んできており、作付け可能な水田や樹園地が増えつつあります。

農業を取り巻く環境では、農産物の販売単価は徐々に伸びているものの、担い手の減少や高齢化、気象変動、燃油・肥料・飼料等の資材価格の高騰、更にイノシシやシカに加え、アライグマやヒヨドリ、カラスといった鳥獣害の拡大により、農業経営が圧迫される状況となっております。

こうした中、当センターでは、「人を育て 未来を創ろう 新しいあさくら農業」をスローガンに、農業所得の向上、担い手の育成・確保、新技術・新品種の導入等現地での課題解決に向けた普及指導活動を、生産者や関係機関・団体の皆様と連携しながら取り組んで参りました。

本冊子は、令和7年度の活動の成果やトピックスをとりまとめたものです。すべてを網羅することはできませんが、成果が得られたものや特徴的な現場の動きを掲載しています。今後の営農に参考となれば幸いです。

当センターは、引き続き、災害復興支援、新規就農者の育成・確保、担い手の経営力強化に取り組むとともに、高温対策といった課題にも真摯に向き合い、朝倉地域の農業・農村の活性化と発展に向けて職員一同尽力していきたいと思っております。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和8年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長
砥綿 査一

目 次

1 普及活動の成果

- (1) 産地で育てる朝倉地域農業の担い手 1
- (2) 地域ぐるみで支える中山間農業 3
- (3) 地域農業をけん引する経営体の育成 5
- (4) 持続可能な地域水田農業を目指して 6
- (5) 青年部を核とした博多万能ねぎの産地振興 7
- (6) あさくら花きの振興 8
- (7) 次世代に繋ぐ魅力ある果樹産地あさくら 9
- (8) 次代を担う若手酪農家の育成 10

2 トピックス（注目の活動・技術・表彰紹介）

- (1) 行武信弘氏が農業指導功労者表彰を受賞 11
- (2) リーダーとなる女性農業者の育成 11
- (3) 令和7年度福岡県青年農業者会議において和佐野董氏・小島達朗氏が優良賞を受賞 . 12
- (4) 第48回農業機械士全国大会において手柴章司氏が最優秀賞を受賞 12
- (5) 令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会において草場厚子氏が優秀賞を受賞 13
- (6) 中耕培土が大豆の生育と収量に及ぼす影響 13
- (7) 令和7年度福岡県麦作共励会において(農)あさくら大角ファームが優秀賞を受賞 . . 14
- (8) 天窓設置によるアスパラガスの高温対策 14
- (9) 福岡県花き園芸連合会新品種審査会にて
師岡幸一氏の育成品種がブルーリボン賞等を受賞 15
- (10) 朝倉市の植木圃場でドローン防除機のデモ飛行を実施 15
- (11) 一日農業バイトアプリを活用した労働力確保 16
- (12) 第5回福岡県肉用種牛共進会において朝倉市の生産者2名が受賞 16

3 参考資料

- (1) 令和7年の気象概況および生産概況 17
- (2) 令和7年度主な展示ほの概要 20
- (3) 令和7年度普及指導センター活動情報一覧 21
- (4) 普及指導センターの活動体制（令和7年度） 23

1 普及活動の成果

1 産地で育てる朝倉地域農業の担い手

実施期間：令和6年度～令和8年度

朝倉地域は果樹や施設園芸の産地ですが、管内生産者の高齢化や担い手不足により、栽培面積や販売金額が減少しています。各生産部会では園地流動化や新品種の導入等の対策に取り組んでいますが、新規就農者などの担い手の確保育成に向けた体系的な支援体制は確立されていません。そこで、研修生受入体制の強化や新規就農者の確保対策、部会を中心とした新規就農者の育成等、生産部会と関係機関が連携して研修から就農までを一貫して支援する仕組みを作ります。

対象の概況

仕組みづくり対象部会	なし部会	50名 (49ha)
	いちご部会	23名 (4.5ha)
	杷木いちご部会	14名 (2.3ha)
新規就農関係	就農相談	47件 (R7年度)
	農業研修生数	4名 (R7年度)
	新規就農者数※	42経営体

※R1年～R6年に青年等就農計画を作成した経営体数

活動の内容

(1)生産部会による新規就農者育成の仕組みづくり

なし部会では、荷原梨団地をモデル地区としてR6年度に聞き取ったアンケート結果を報告し、団地内の現状と課題を把握、今後の活動について合意形成を図りました。また、県外の先進地視察をきっかけに、部会役員からの提案を受けプロジェクトチームの立上げに至りました。いちご部会では、R6年度に実施した意向調査結果を報告し部会員同士で産地課題の共有を行いました。

(2)新規就農者の確保

関係機関と連携し就農相談会を行い、就農を希望する方や農業研修生を募りました。また、就農希望者には青年等就農計画の作成支援を、農業研修生に対しては講座や研修を通して就農への支援を行いました。

(3)新規就農者の育成

就農1、2年目及び農業研修生を対象に新規就農者のつどいを開催しました。つどいでは「就農後の目標」や「困ったこと」「課題」について若手先輩農家との意見交換を行い、就農に対する悩み等にアドバイスを頂きました。

また、就農5年目までの新規就農者に対しては重点的にフォローアップを行いました。



新規就農者のつどいでの意見交換

成 果

(1)生産部会による新規就農者育成の仕組みづくり

○なし部会の取り組み

聞き取り結果をまとめ、団地の生産者全員との園地マップ（経営意向、後継者の有無）の共有が図られました。

先進地事例調査より、部会主導での「新規就農者育成のためのプロジェクトチーム」が発足し、部会総会でも承認されました。

○いちご部会の取り組み

新規就農者に聞き取りした、就農前後に苦労した点やより良い受入体制への意見を取りまとめ、提案しました。

2部会合同での青年部視察研修を通じて、「新規就農者の育成の仕組みづくり」が産地の課題として認識が深まりました。



なし部会での園地マップの検討



いちご部会担当者での検討

(2)新規就農者の確保

就農相談会等を通して農業研修生を募り、来年度の農業研修生への応募者が2名確保されました。

令和7年度に青年等就農計画を作成支援した認定新規就農者は8経営体となりました。

(3)新規就農者の育成

今年5年目を迎える新規就農者2名のうち2名全員が、就農当初に立てた青年等就農計画の目標売上を上回り、目標が達成されました。



研修生への講座の様子



研修生への剪定指導

今後の取り組み

なし部会では、部会が主導する「プロジェクトチーム」の支援を行うとともに、部会全体での営農意向調査を実施します。また、いちご部会では、若手グループを中心に検討し、部会全体での合意形成を図りながら、システムづくりに繋げていきます。

生産部会と連携した研修から就農までの一貫した新規就農の仕組みを作ることで、研修後スムーズに就農へと繋げることが可能となります。この仕組みを構築し、より多くの就農希望者が朝倉地区での就農に魅力を感じられるように条件整備を進めます。

産地の維持・拡大のためには、新たな担い手の受け入れ、就農後の定着～早期の経営安定が必須となります。引き続き、関係機関と連携し、新規就農者の早期経営安定に向けて支援します。

2 地域ぐるみで支える中山間農業 (H29九州北部豪雨農業災害復興プロジェクト第3期)

実施期間：令和6年度～令和8年度

朝倉地域は平成29年7月九州北部豪雨災害により甚大な被害を受けました。

当センターでは、平成30年から2期6年にわたり重点プロジェクトとして朝倉地域の復旧・復興を目的に、中山間地における「営農ビジョン」の作成や複合経営による被災農家の経営再建を支援してきました。

第3期では、これまでの活動で作成した「営農ビジョン」の実現を目的として、黒川と松末を重点支援地区に選定し、将来にわたって持続的に営農ができる中山間モデルの育成に取り組みました。

対象の概況

朝倉市河川流域区画整理型復旧事業地区 6河川 13換地区 185ha (R6年度)

重点支援地区	対象組織
黒川地区 (46.6ha)	一般社団法人くろがわ (正会員59名)
松末地区 (94.0ha)	松末コミュニティ協議会営農検討部会「チームますえ」 (委員・事務局計19名)

活動の内容

(1)地域農地を担う組織の設立

農地を担う組織の設立を支援するため、朝倉地域担い手・産地育成協議会復興プロジェクト朝倉市班を開催し、関係機関の情報共有をすすめました。

(2)ロードマップ(行動計画)の作成と実践

黒川地区では、一般社団法人くろがわ(以下「一社くろがわ」)の役員会に参画し、組織の運営を支援しました。松末地区では、農地を守る組織の設立に向け「チームますえ」の活動を支援しました。

(3)新規品目・新技術の導入

法面の雑草対策として雑草抑制シート展示ほの調査を行いました。

また、復旧農地の営農再開までの期間の雑草管理や土壌の硬化軽減のために緑肥作物の展示ほを設置しました。



「チームますえ」役員会の様子

成果

(1)地域農地を担う組織の設立

黒川地区では、中山間地域等直接支払制度集落協定が締結されました。また、多面的機能支払交付金活動組織が設立されました。

松末地区では、地域資源管理団体として一般社団法人ますえの里(以下「一社ますえの里」)が令和7年12月17日に設立されました。

(2)ロードマップの作成と実践

黒川地区では、関係機関と連携して一社くろがわで開催された役員会(4回)を支援した結果、ロードマップに記載された中山間地域等直接支払制度集落協定の締結、多面的機能支払交付金活動組織の設立及び交付金申請が行われました。

松末地区では、チームますえの役員会・全体会や地権者への説明会(合計20回)を支援して地域の合意形成を図った結果、ロードマップに記載された地域集積協力金の申請と地域資源管理団体としての「一社ますえの里」が設立されました。

(3)新規品目・新技術の導入

雑草抑制シート展示ほの効果により、黒川地区で多面的機能支払交付金を活用した導入が行われました。緑肥作物の展示ほではセスバニア(マメ科牧草)が土壌の硬化軽減に有効であることが明らかとなりました。



雑草抑制シート展示ほの様子



緑肥作物展示ほ(セスバニア)の様子

今後の取り組み

朝倉市農業の復興に向けて、関係機関と連携し以下の取組みを進めます。

黒川地区では、一社くろがわの運営や作成したロードマップをもとに年度計画の実践を支援します。

松末地区では、作成したロードマップをもとに年度計画の実践を支援します。また、設立された一社ますえの里の運営を支援します。

また、復旧農地における営農再開のために、土壌改良剤施用の展示ほを設置します。

地域農業をけん引する経営体の育成

実施期間：令和5年度～令和8年度

今後の朝倉地域を担う経営体を育成するためには、意欲的な農家の更なる経営力強化が必要です。そのためには、各農家が現状や今後の目標を明確にし、それぞれに合った戦略を考えることが重要です。そのきっかけを作るために、ビジネスプランの作成や専門家派遣を行っています。

対象の概況

経営改善に意欲的な農家 (R7年度)

経営体育成支援対象	14経営体
福岡県キャリアアップ講座受講者	3名
認定農業者	484経営体

活動の内容

(1) ビジネスプラン作成支援

新たな展開を考えている経営体を掘り起こし、10年間の戦略を立てるビジネスプランの作成を支援しました。

特にSWOT分析では普及員の立場で地域性や品目の状況、第三者から見た経営内容について意見を出し合い、各経営体の現状把握を深めました。

(2) 専門家の活用

経営継承や新たな雇用や投資を考えている経営体に対して、今後の方針の参考とするために税理士や中小企業診断士といった専門家を派遣しました。



SWOT分析の支援

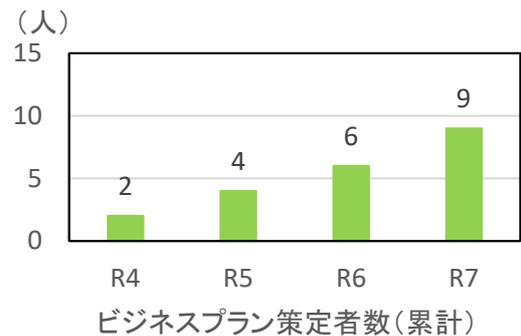
成果

(1) ビジネスプラン作成支援

掘り起こしと伴走支援を行った結果、ビジネスプランを作成した経営体は3年間で7経営体増加しました。

・ビジネスプラン策定者数(累計)

(R4:2名→R7:9名)



(2) 専門家の活用

経営体の課題に合わせて、3年間で8経営体に専門家を派遣しました。

・専門家派遣を行った経営体数(累計)

(R5:3経営体 → R7:8経営体)



専門家派遣の様子

今後の取り組み

朝倉地域を担う経営体の育成のために、引き続き支援を行います。

持続可能な地域水田農業を目指して

実施期間：令和5年度～令和7年度

朝倉地域の水田農業は担い手の高齢化や減少といった課題があります。地域の水田が今後も持続的に活用されるよう、担い手である集落営農法人等への支援に取り組み始めました。

また、近年収量が低下している大豆の収量向上と安定生産を目指して、乾燥害対策や適期播種推進等を行いました。

対象の概況

- 集落営農法人等 (R4年度)
朝倉市 10法人、筑前町 1法人、東峰村 1法人
- 集落営農組織(任意組織)
朝倉市 17組織、筑前町 34組織、東峰村 6組織
- 個別大規模農家(経営面積10ha以上)
朝倉市 44戸、筑前町 39戸、東峰村 0戸
- 大豆作付面積 1,193ha (R6)

活動の内容

(1)水田農業担い手の支援方針の検討

関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会の水田農業部会において戦略会議を行い、地域の水田農業の担い手が5年後に抱える課題や将来目指すべき姿、その実現に向けた取り組み等について検討しました。

(2)集落営農法人等の経営強化

高齢化や人手不足へ対応するため、関係機関と連携し集落営農法人等に対して中長期計画(アクションプラン)の作成を支援しました。

(3)「ふくよかまる」の安定生産

近年の大豆の収量低下要因(生育期間中の乾燥害)や、適期播種・乾燥害対策について講習会等で周知するとともに、部分浅耕播種の実演会を開催するなど導入支援を行いました。



部分浅耕播種指導

成果

(1)水田農業担い手の支援方針の検討

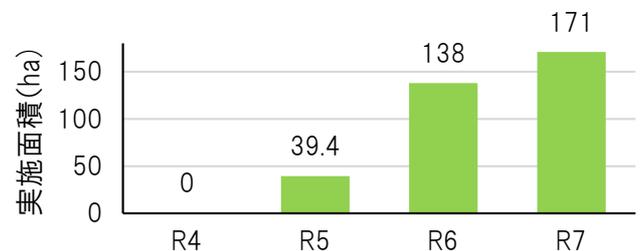
集落営農組織への支援、草刈りへの対応、個別大規模農家へのサポート等について認識の共有化が図られました。

(2)集落営農法人等の経営強化

2法人と1組織を支援した結果、各組織で主体的にアクションプランが作成できました。作業シミュレーションで人員や所得配分を試算し、目指す姿を具体的にイメージできたことで、合意形成が円滑に進みました。

(3)「ふくよかまる」の安定生産

令和7年産では生育前半に乾燥害を受けましたが、部分浅耕一工程播種の普及や適期播種が功を奏し、乾燥害を軽減できたほ場を中心に収量が確保できました。その結果、178kg/10a(R8年2月時点)と県内JAで上位2位の収量となりました。



管内の部分浅耕一工程播種実施面積

今後の取り組み

引き続き、関係機関で水田農業担い手が抱える課題への対応策を検討すると共に、大豆の収量向上による農家所得向上を目指して支援を行っていきます。

青年部を核とした博多万能ねぎの産地振興

実施期間：令和7年度～令和9年度

博多万能ねぎは、近年高温の影響により夏季の出荷量が不安定となっています。そこで、部会青年部を中心に、夏季の栽培管理の把握と高温対策技術の検証により、夏季の出荷量増加を図りました。また、産地の担い手となる青年部員に対して経営基礎研修を開催し、今後の産地力強化に向けた支援を行いました。

対象の概況

JA筑前あさくら博多万能ねぎ部会（R7年度）

農 家 数	83戸
栽 培 面 積	83ha

※ R7年度青年部員数 28名

活動の内容

(1)夏季の収量向上技術の確立

夏季の高温による葉先枯れや生育不良を防止するため、遮熱資材の被覆や塗布による高温対策試験展示ほを設置し、その効果を検証しました。

また、生育不良箇所の土壌分析を行い、化学性や物理性を調査し、ネギの生育と土壌の特徴について分析しました。



高温対策試験ほ場巡回

(2)若手生産者の経営能力向上

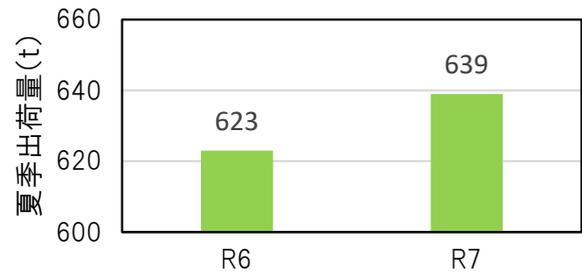
青年部に対して、決算書類の見方等の経営に関する研修会を開催した他、経営状況の現状把握と数年後の目標設定を促しました。

成 果

(1)夏季の収量向上技術の確立

高温対策試験を実施した結果、生育の揃いが良くなりましたが、遮光率によっては徒長により倒伏し出荷できないものも見られました。

この取組を通じて、部会の高温対策への意識が高まり、夏季の収量が向上しました。



夏季(8~11月)出荷量の推移

(2)若手生産者の経営能力向上

研修会を通じて青年部10名の生産者が、自身の経営の目標を設定しました。



経営基礎研修会の様子

今後の取り組み

高温対策試験や調査を継続し、夏季の収量向上技術の確立に努めます。また、目標を設定した農家に対し、目標達成に向けた支援を行います。

あさくら花きの振興

実施期間：令和5年度～令和7年度

朝倉地域の花き生産のうち、シンテッポウユリ、切り枝、鉢物リンドウについては産地として今後拡大または継続的な発展が見込まれる品目です。そこで、シンテッポウユリの生産販売の安定、切り枝の販売体制の確立、鉢物リンドウの育種支援による産地ブランド保守を実施し、朝倉地域の花き産地の振興を図りました。

対象の概況

(R7年度)

シンテッポウユリ生産者	12戸
切り枝生産者	13戸
鉢物リンドウ生産者	8戸

活動の内容

(1)シンテッポウユリの生産販売の安定

新規生産者を重点的に支援することで、栽培技術の確立を支援しました。コスト低減を目的に、肥料や自家育苗の展示ほを設置するとともに、出荷販売の安定を目指し、出荷マニュアルを作成しました。

(2)切り枝の販売体制の確立

多様な切り枝の販売体制を確立するため、生産が多い品目の規格や出荷時期、単価を整理し、生産販売の指針となる資料を作成しました。

(3)鉢物リンドウの産地ブランドの保守

リンドウ研究会が育成を行った系統について品種登録出願に必要な形質調査や書類作成に関する支援を行いました。また、育成品種の栽培技術確立を目的に栽培マニュアルを作成しました。



シンテッポウユリにおける
肥料コスト低減展示ほ

成果

(1)シンテッポウユリの生産販売の安定

R4年以降新たに生産を開始した3名が定着し、生産面積がR4年比で14%増加しました。

(2)切り枝の販売体制の確立

朝倉で生産の多い以下の7品目について出荷指針を作成し、生産販売に活用しました。

- ・ユーカリ グニー
- ・ユーカリ シネレア
- ・ユーカリ ポリアンセモス
- ・アカシア ギンヨウ
- ・アカシア ブルーブッシュ
- ・ロシアンオリーブ
- ・ブルーアイス

(3)鉢物リンドウの産地ブランドの保守

R6年に「心美雅(ここみみやび)」が品種として登録されました。さらに、新たな有望系統が育成され、R8年に品種登録出願申請する予定です。



育成された有望系統

今後の取り組み

鉢物リンドウでは引き続き産地ブランドの保守に向けた支援を継続するとともに、切り花・切り枝では新規参入を推進し、産地の活性化を支援していきます。

次世代に繋ぐ魅力ある果樹産地あさくら

実施期間：令和6年度～令和8年度

高齢化に伴い生産者数が減少する中、朝倉の果樹産地を次世代へ継承するため、部会や地区ごとに営農や園地・施設の貸借の意向を収集し、組織内や関係機関と共有する仕組み(以下、仕組み)の構築を目指しています。そこで、産地維持の取組への意識付けや、仕組みの構築に向けた支援を行いました。

対象の概況

JA筑前あさくら (R7年度)

かき部会	347名	218ha
とよみつひめ部会	63名	10ha
ぶどう部会	54名	14ha
なし部会	50名	47ha
もも部会	26名	8ha
すもも部会	9名	2ha
キウイフルーツ生産者	25名	3ha
果樹GAP研究会	26名	-

活動の内容

(1) 仕組みの構築に向けた情報収集

関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会の果樹部会と各果樹品目の生産部会が合同で、産地維持に取り組む先進地の視察を行い、仕組みの構築に向けた意識醸成を図りました。気運が高まった部会や地区に対し、意向アンケートや聴取の実施を支援しました。

(2) 仕組みの構築

部会や地区において、収集した情報の共有、更新および活用に関するルールの検討を支援するとともに、関係機関と取組状況を共有しました。

(3) 仕組みの活用に向けた取組

部会や地区、関係機関と連携して、新規栽培希望者や営農を縮小予定の生産者等に対して情報提供を行いました。



成果

(1) 仕組みの構築に向けた情報収集

もも部会や中宮野地区で、営農意向や園地・施設の貸借意向に関する情報が収集されました。

・情報収集の取組数

(R6:4 → R7:7)(累計)

(2) 仕組みの構築

とよみつひめ部会やすもも部会、中宮野地区で、収集した情報を各組織内や関係機関で共有し、取扱や更新、活用に関するルールが設定されました。

・仕組みの構築の取組数

(R6:部会:1 → R7:3 (累計)
地区:1 → :2)



(3) 仕組みの活用に向けた取り組み

仕組みにより、新規栽培者の栽培開始や、園地を荒廃させずに営農継続に繋がりました。

・仕組みの活用数(名)

(R6:0 → R7:3)(累計)

今後の取り組み

仕組みの構築に取り組む部会や地区に対し、引き続き支援していきます。また、未実施の部会や地区に対し、先進事例等を紹介し、取組みを推進します。

次世代を担う若手酪農家の育成

実施期間：令和5年度～令和7年度

管内には若手経営主及び後継者が多く、営農意識が高く切磋琢磨しているものの知識や技術の習得程度に差があることが課題でした。

そこで、厳しい酪農情勢を乗り切り、今後10、20年と酪農経営を続けていくための礎をつくるため、関係機関と連携し、主に繁殖成績の改善や乳質改善(体細胞数の低減)について支援を行いました。

対象の概況

家畜飼養頭羽数調査 (R7年2月1日現在)

	管内の状況	うち重点
農家戸数	62	25
経産牛頭数	3,010	1,421

活動の内容

(1) 繁殖成績の改善

獣医師や家畜人工授精師と連携し、周産期飼養管理指導や乳成分分析シートを活用した巡回指導を行いました。また、生産者主体の情報交換を含めた講習会により、周産期管理の意識向上を図りました。さらに、ICT機器の推進も行いました。

(2) 体細胞数の低減

事例調査(搾乳立会、乳頭口スコア)を行い、講習会を実施しました。さらに調査結果をもとに、我が家の搾乳作業振り返りシートを作成し、各農家に応じた改善提案を行いました。



乳頭口スコア調査

成果

(1) 繁殖成績の改善

4戸で繁殖成績(初回授精日数)が改善されました。

・初回授精日数120日以下達成農家数

(R5:13戸→R7:17戸)

(2) 体細胞数の低減

搾乳衛生チェックリスト等の作成により搾乳衛生に対する理解醸成が進み、3戸で体細胞数が改善されました。

・体細胞リニアスコア2.8以下達成農家数

(R4:14戸→R7:17戸)

搾乳衛生チェックリスト

○令和6年に行った20戸の搾乳立会を元、乳膜炎にさせない為の搾乳チェックリストを作成しました。 優良農家が必ず実施している項目です

チェック項目	解説	実施状況
搾乳手袋を着用している	・黄色ブドウ球菌や手荒れのことを考慮すると、装着を推奨	実施している ・ 実施していない
前搾りを5回以上している	・5回未満でも良いので、前搾りは必須	実施している ・ 実施していない
ストリップカップ等を使用している	・ストリップカップを使用することで、ブツを見つけやすくなり、乳房炎の早期発見につながります。 乳房炎の早期発見につながることを目的として	使用している ・ 使用していない
前搾りから90秒以内にミルカーを装着している	・90秒以内に装着することを強く推奨。それ以上は過搾乳に繋がります。	実施している ・ 実施していない
完全に出なくなる前にミルカーを外している	・クローの縁を生乳がわずかに伝うくらいで外すことを推奨。完全に出なくなるまで搾ると過搾乳です。	実施している ・ 実施していない
搾乳終了間際に、ミルカーを下に引いたり、乳房揉んだりしていない	・ミルカーを引く行為(マンストリッピング)は、乳頭口に過剰な負荷がかかりますので、NG行為です。乳房炎以外の牛は完全に搾り切る必要はありません。	していない ・ 引いている
ミルカー装着から、長くとも7分以内に搾乳を終えている	・搾乳を促すホルモンの分泌(ソート)は5分で分泌されなくなるので、5分以内に搾り切るのが理想。乳量を考慮しても7分以内に終える。	終えている ・ 終えていない

搾乳衛生チェックリスト一部抜粋

今後の取り組み

飼料価格の高騰等により、依然として酪農情勢は厳しい状況です。引き続き、関係機関と連携して、技術支援及び経営支援を行い、酪農経営基盤の強化を図ります。

2 トピックス(注目の活動・技術・表彰農家の紹介)

1 令和7年度福岡県青年農業者会議において 行武信弘氏（筑前町）が農業指導功労者表彰を受賞

本県の次代の農業を担う農業青年の確保・育成に尽力し、農業者の意欲を高揚させ本県農業の発展に大きく貢献された農業指導者に対して、「福岡県農業指導功労者表彰」が授与されます。今年度は令和8年1月30日に開催された福岡県青年農業者会議で県下3名が表彰されました。

当センター管内で受賞された行武信弘氏(筑前町)は、H23～R3年度まで11年間、県が認定する「指導農業士」を務められました。またH30年には、JA筑前あさくら冬春なす部会の部会長も歴任され、長年にわたり新規就農者の確保・育成に貢献されました。特に、H28年以降は農業研修生の就農時に自らの施設ハウスを貸し出して経営開始を支援するなど、新規就農者の育成に対する熱意が高く評価されました。この他、県農業大学の学生の研修受入れや、地域のあさくら地域4Hクラブ員への指導、地域におけるナス新規就農者等への支援に尽力されました。



徳田農林水産部長より授与



受賞した行武氏(中央)

2 リーダーとなる女性農業者の育成 (みやま市バイオマスセンターへ視察)

地域振興課 地域係

朝倉地域のリーダーとなる女性農業者の育成を目的として、女性農村アドバイザーとそのOBを対象に視察研修を開催しました。まず、みやま市のバイオマスセンター「ルフラン」を訪問しました。ルフランでは、市民の協力を得て収集した生ごみを液肥に変換し、市民に無料で提供しています。発生するガスで施設内の電力を賄う他、市のごみ焼却場の負担を減らす効果もあり、地域資源を循環させる取組を学びました。その後、みやま市の農業委員会会長として活躍されている徳永順子氏から、旧山川町で取り組まれた荒廃農地の整備について紹介がありました。講演後には意見交換を兼ねてランチ交流会を行いました。「共に考え、共に動いた分、地域は変わっていく」という徳永順子氏の考え方が、朝倉地域でも広がるのが期待されます。



バイオマスセンター見学



徳永順子氏との交流会

3 令和7年度福岡県青年農業者会議において 和佐野董氏・小島達朗氏（朝倉市）が優良賞を受賞

令和8年1月30日に開催された令和7年度福岡県青年農業者会議において、「意見発表の部」であさくら地域4Hクラブの和佐野董氏（朝倉市）、「プロジェクト発表の部」で同クラブの小島達朗氏（朝倉市）が優良賞を受賞されました。

意見発表では、和佐野氏が仕事や4Hクラブ活動で得た学びと今後実現したい夢について発表を行い、審査においては将来の目標に対する熱意とひたむきな姿勢が好評を得ました。実績発表では、小島氏が各クラブ員の栽培品目の違いを活かした作業支援プロジェクト活動について紹介を行い、審査においては、労働環境改善に向けた課題をクラブ員同士の協力によって客観的な視点から探ることができている点が高く評価されました。

なお、今回プロジェクト発表で入賞した小島氏は令和8年度に鹿児島県で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議に福岡県代表として出場されます。



作業内容を説明する小島氏



受賞した小島氏（左）と和佐野氏（右）

4 第48回農業機械士全国大会トラクター競技会において 手柴章司氏（筑前町）が最優秀賞を受賞

令和7年11月14日に富山県で開催された第48回農業機械士会富山大会のトラクター競技会において、筑前町の手柴章司氏が、「トラクタ点検・トレーラーけん引の部」で最優秀賞を受賞されました。

トラクター競技会は、農業者の資質向上と農作業安全意識の高揚を図る目的で開催され、公道走行を想定した競技会は今回が初めてです。定められたコースを右左折や交差点の通過、方向転換など、適正な方法でいかに安全に走行できるかを全国から集まった選手が競い、手柴氏は非常に正確かつ安全な運転技術が高く評価され、最優秀賞を受賞されました。

「普段、運転する際にも幅よせ、巻き込み確認は必ずやっている。本番では特に緊張することなく、楽しく競技をした。」と競技を振り返る手柴氏は、日頃から農業機械士として農業機械の技術指導もされており、「機械の技術だけでなく、農作業の要領なども伝えていきたい」と語られています。



受賞した手柴氏

5 令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会において 草場厚子氏（朝倉市）が優秀賞を受賞

令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会の農家の部において、朝倉市の草場厚子氏が優秀賞を受賞されました。

草場氏は、播種前の明渠施工により排水対策を徹底するとともに、部分浅耕一工程播種の全面積導入により適期播種、湿害・乾燥害対策を行い、242kg/10a(令和6年産県平均対比218%)という高収量を実現しました。また、地元の機械利用組合のオペレーターとして播種作業を行うなど、地域活動にも貢献されていることが高く評価されました。



草場氏の表彰式の様子

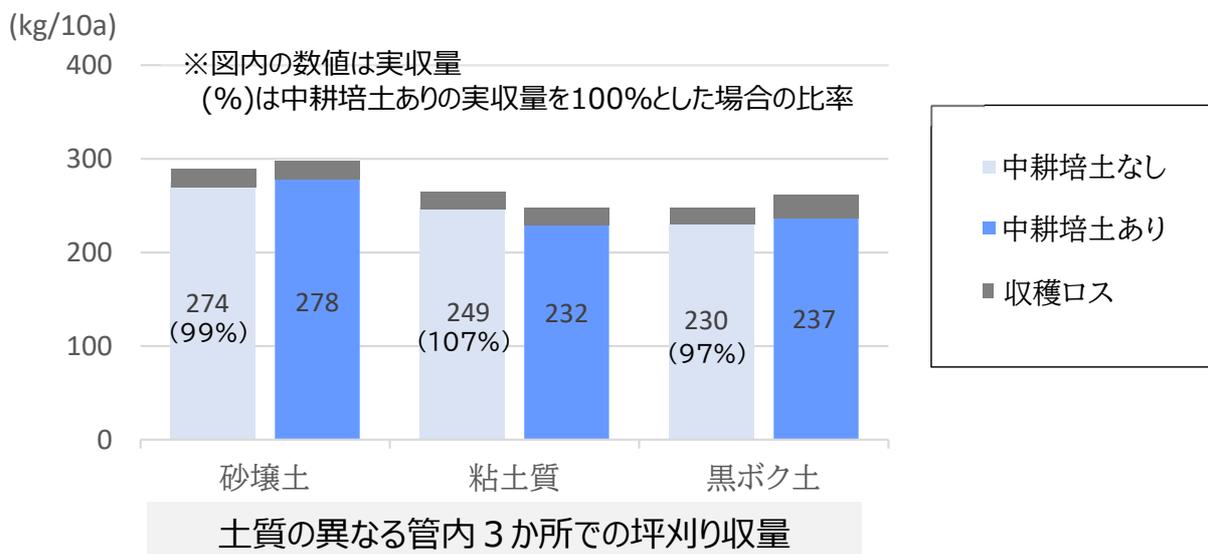
6 中耕培土が大豆の生育と収量に及ぼす影響

地域振興課 水田農業係

従来大豆作において中耕培土は、排水対策、倒伏防止、除草等の理由により、重要な管理作業のひとつとされてきました。一方、乾燥年において、土壌の種類によっては中耕培土の作業が乾燥害を助長する知見があります。そこで、排水が良く乾きやすい砂壤土、保水性は高いが乾くと硬くなる粘土質、排水性・保水性ともに高い黒ボク土において、中耕培土の効果を確認しました。

中耕培土なし区の坪刈り収量は、中耕培土あり区と比較して、同等からやや少ない結果でした。しかし、中耕培土なし区は、最下着莢高が高くなるため収穫ロスが低減し、坪刈り収量に収穫ロスを加味した実収量は、砂壤土では99%、粘土質では107%、黒ボク土では97%と同等からやや多い結果となりました。

収量や土壌区分、猛暑下の労働負荷を踏まえて、中耕培土の有無を総合的に判断する必要があると考えられますので、引き続き、中耕培土が乾燥害に及ぼす影響について検討して参ります。



7 令和7年度福岡県麦作共励会において (農)あさくら大角ファーム(朝倉市)が優秀賞を受賞

令和7年度福岡県麦作共励会の集団の部において、朝倉市の(農)あさくら大角ファームが優秀賞を受賞されました。

(農)あさくら大角ファームは、朝倉市の中でも大面積を担う土地利用型法人であり、地域の重要な担い手です。弾丸暗渠施工による排水対策や赤かび病防除などの基本技術の徹底に努め、二条大麦651kg/10a(令和7年産県平均対比161%)、小麦423kg/10a(令和7年産県平均対比103%)という高収量を実現しました。また、共同で行う作業を数人1組のチーム制とし、役割分担を明確化することで効率的な作業を実現されていることが高く評価されました。



(農)あさくら大角ファームの表彰式の様子

8 天窓設置によるアスパラガスの高温対策

園芸課 野菜係

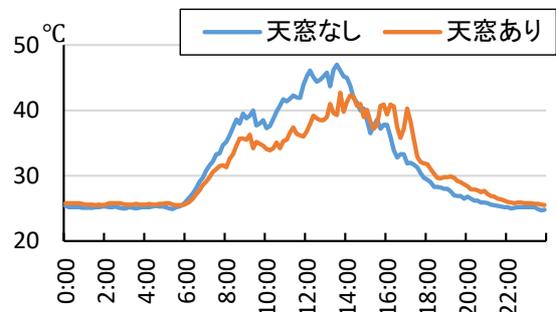
アスパラガス生産ハウスでは、近年の夏季の猛暑により親茎の葉焼けが発生し、夏芽や翌年春芽の収量が低下する要因となっています。特に、他品目からアスパラガスへ転換したハウスでは軒が低く、開口部も小さいため、高温による被害が大きくなっています。そこで、既存のビニールハウスに後付けできる天窓を設置し、高温抑制効果を検討しました。

試験の結果、親茎の葉焼けの発生程度に差はみられませんでした。天窓を設置したハウスでは、アスパラガス擬葉上の温度が晴天日で8.4℃低くなり、6～11月の夏芽の収量が10aあたり160kg増加しました。

今後は、春芽の収量調査を行い、天窓設置による高温抑制の効果が夏芽および翌年春芽の収量に及ぼす影響を検証します。



天窓を設置した状況



アスパラガス擬葉上(赤丸部分)の晴天日の温度推移

9 福岡県花き園芸連合会新品種審査会にて 師岡幸一氏（朝倉市）の育成品種がブルーリボン賞等を受賞

花ではオリジナリティの高い商品が注目されることから、生産者による育種が行われており、県内でも様々な花で品種が育成されています。

このたび、JA筑前あさくら鉢花部会の師岡幸一氏が育成した「マンデビラ」3品種が、福岡県花き園芸連合会新品種審査会へ出品され、令和7年4月24日に現地審査が行われました。

その結果、赤い花弁に白いストライプが入る「ファッションウイंक」が最優秀賞であるブルーリボン賞を、蕾がピンクで赤花の「ファッションローズ」と濃赤花の「ファッションルージュ」がピンクリボン賞を受賞しました。

審査会で入賞した3品種については、花あふれるふくおか推進協議会の支援により品種紹介パンフレットが作成され、師岡氏の新品種PR活動に活用されています。



現地審査の様子



受賞した3品種のパンフレット

10 朝倉市の植木圃場でドローン防除機のデモ飛行を実施

園芸課 花き係

農業用ドローンによる防除はスマート農業技術の1つとして注目されており、現在水稻や野菜などの品目で導入が進みつつありますが、植木生産では先行する事例は確認されていません。

そこで普及指導センターでは一般社団法人福岡県樹芸組合連合会と連携し、県の産地一体型農業DX推進事業を活用して令和8年1月30日にドローン防除機のデモ飛行を朝倉市の植木生産者圃場で行いました。当日は生産者と関係機関合わせて19名が参加しました。

デモ飛行では、植木圃場25aへのドローン防除機の自動航行を水を用いて実演した後、圃場内に設置した感水紙への水分付着状況の確認、自動航行設定の段取りや注意点の説明を行いました。参加者からは、「散布幅はどうやって変えるのか」、「液だけでなく粒剤や粉剤も散布できるのか」など熱心に質問があり、「今後本格的にドローン防除機の導入を検討したい」という声も聞かれました。普及指導センターは、今後も関係機関と連携し、植木生産におけるドローン防除機の導入について支援していきます。



ドローン防除機のデモ飛行の様子



感水紙への水分付着状況を確認する参加者

11 一日農業バイトアプリを活用した労働力確保

園芸課 果樹係

生産者の高齢化などによる労働力不足が深刻化しており、果樹の栽培にとって重要な摘蕾・摘果といった作業の遅れが、果実の小玉化を助長する大きな要因となっています。そこで、普及指導センターでは、JAと連携し、労働力確保を目的とした生産者と求職者をマッチングさせる一日農業バイトアプリの活用を推進しています。

今年度は、各果樹部会の講習会において、アプリの活用により労働力を確保した事例を紹介し、適期作業の重要性を説明しました。アプリを活用した生産者からは、「果実の肥大向上だけでなく、作業の見通しが立ちやすくなった」、「カキの収穫時にも活用し、適期に収穫が終わった」などの声が挙がり、アプリ活用による労働力確保の効果を実感していました。今後は、今年度の活用事例を紹介し、更にアプリの活用が広がることで、労働力確保や生産性の向上が期待されます。



カキの摘蕾を行う被雇用者



カキの収穫を行う被雇用者

12 第5回福岡県肉用種牛共進会において (株)堀内牧場と上野修司氏（朝倉市）が優秀賞を受賞

令和7年11月29日、第5回福岡県肉用種牛共進会が筑紫野市の農業大学校グラウンドにて開催されました。本共進会は、種牛の育種改良と安定した和牛繁殖経営の実現を目的に開催されており、月齢により、若雌1区と若雌2区の2つに区分され、県内各地より両区合わせて21頭の出品がありました。

当日は、月齢に応じた発育や和牛雌牛としての品の良さ、全体的なバランスが審査されました。

このうち、若雌1区において、久留米地域和牛改良組合員で朝倉市の(株)堀内牧場の「かつさくら」号が優秀賞1席、同じく上野修司さんの「ちえりい」号が優秀賞2席を受賞しました。「かつさくら」号は、体の伸びや雌らしきがあるといった点、「ちえりい」号は幅、長さがあり骨味に優れている点が評価され、今回の受賞となりました。



優秀賞1席「かつさくら」号



優秀賞2席「ちえりい」号

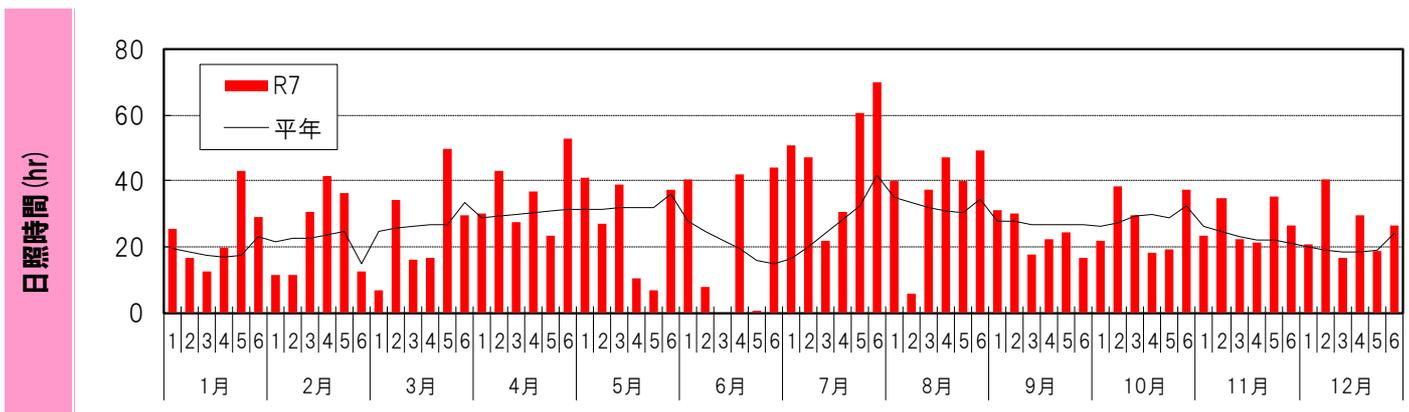
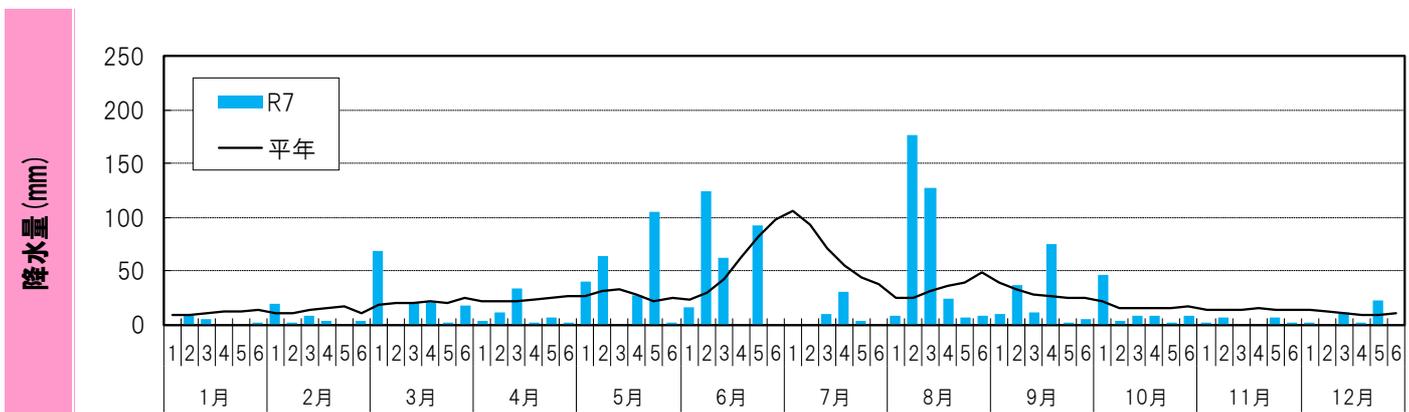
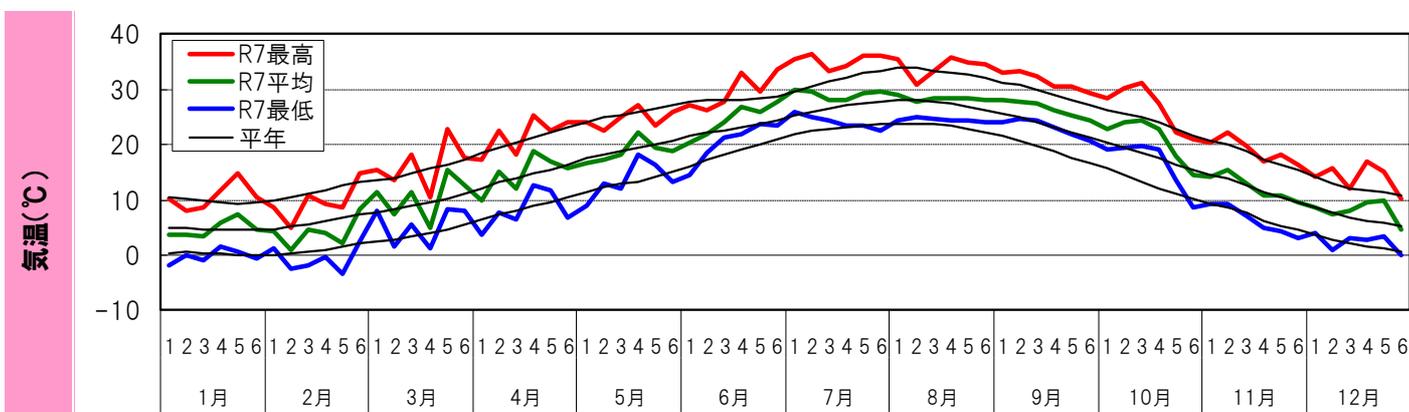
3 参考資料

(1) 令和7年の気象概況および生産概況

【年間概況】令和7年の管内の気象は、年平均気温は16.9℃(平年比106%)、年間降水量は1,436mm(平年比74%)、日照時間は2,073時間(平年比112%)であった(データ:朝倉アメダス)。

【月別概況】1月の気温は平年並みで推移し、2月の平均気温は平年より2.3℃低かった。3月の平均気温は平年より1.2℃高く、4,5月は平年並みで推移した。梅雨入りは5月16日頃(平年より19日早い)、梅雨明けは6月27日頃(平年より22日早い)で、7月の降水量は平年比10%と少なかった。

8/10~11の2日間で計259mmの降水量を記録し、8月の降水量は平年比170%となった。7月以降高温傾向で推移し、7月の平均気温は平年より2.3℃、8月は0.9℃、9月は2.9℃、10月は3.0℃高かった。11月の気温は平年並みで推移し、12月の平均気温は平年より1.3℃高かった。また、9~12月の降水量は平年比64%と少なかった。



グラフは朝倉アメダスの半旬データを元に作成

水稲・麦・大豆

令和7年産の麦は、大豆収穫の遅れ、降雨等の影響で、一部ほ場で播種作業が遅れた。播種期間が長く、12月以降低温傾向で推移したため、ほ場によって生育ステージの差が大きくなった。適期播種ができたほ場では生育は順調に進んだが、播種が遅かったほ場は草丈が短く、茎数が少なく推移した。低温傾向により、出穂期および成熟期は平年並み～平年よりやや遅くなった。収量は昨年より多く、大麦410kg/10a、小麦406kg/10a(JAカントリー平均)であった。

水稲は、田植えのピークは6月21～22日頃であった。田植え期以降、高温多照傾向で推移したため、初期生育は概ね順調であったが、田面が露出した部分を中心に、雑草の多発生が見られた。出穂期は平年並み～やや早い傾向となった。ウンカ類の飛来は少なかったが、紋枯病の発生が平年より多く、一部ほ場で倒伏がみられた。8月下旬～10月の高温傾向により、収穫時期は平年よりやや早かった。収量は作況単収指数で102とやや多収であり、品質は高温により白未熟粒がやや多かった。

大豆は、梅雨明けが平年より早く、播種ピークは7月5～6日頃と適期播種ができたものの、ほ場の乾燥により出芽不良・生育抑制が発生した。一部の地区では畝間かん水が実施された。7月～8月上旬までの乾燥により、一部のほ場で、落花、落莢、不稔が発生し、青立ち株発生の原因となった。8月中旬以降は定期的な降雨があり、土壤水分が保たれたため生育は回復した。ハスモンヨトウの被害は少なかったが、カメムシ類の発生が多かった。莢数は多かったが、9、10月の高温寡照により、粒肥大が抑制され、中粒主体となった。荷受け重量は202.5kg/10a(JAカントリー平均)と昨年より多かった。品質は、一部に泥かみによる汚損粒やカメムシによる被害粒が見られた。

野菜

青ネギは、春先の高夜温や降雨で軟弱徒長となり、4月以降倒伏が多く収穫量が少なかった。また、梅雨時期は降雨による倒伏が一部で発生した。梅雨明け後は高温乾燥が続き、発芽不良や葉先枯れが原因となり9月の収穫量が減少した。10月下旬以降、収穫量は徐々に回復したが、12～2月は低温により生育が停滞した。病害虫については、5月、6月にハモグリバエ類の発生が多く、10月にヨトウ類の被害が多かった。アザミウマ類は年間を通じて発生が多く、6月上旬に特に発生が多かった。

イチゴは、令和6年産は1番果房の花芽分化のばらつきや2月の低温により、2月までの出荷量が少なくなったものの、2月末からの最低気温の上昇に伴って出荷量が増加し、最終的な出荷量は前年度比110%となった。

令和7年産は、ランナーの発生が2月から4月の低温により遅れ、一部で切り離しが遅れた。7月以降は高温により苗の生育は緩慢で、8月中旬の大雨により炭疽病が多発した。9月も高温が続き、1番果房の花芽分化は例年より遅かった。

アスパラガスは、12月中旬以降の最低気温が低く推移したことにより、休眠覚醒は例年より早かったが、出荷開始は例年並みの開始となった。2月から4月の低温に加え前年夏季の高温による貯蔵養分不足もあり、春芽の収穫量はやや少なくなった。梅雨明け後から9月にかけての高温により夏芽の品質が低下し、収穫量が少なくなった。同時期は、ハダニ類やアザミウマ類、コナジラミ類の発生が多く、8月中旬の大雨により斑点性病害の発生が増加した。

令和6年産のトマトは、育苗期の高温による萎れやコナジラミ類の発生が多くが見られたものの、定植後は好天により順調に生育した。12月は低温寡日照により、収穫の遅れが見られた。1月は好天で収穫が進み、草勢は維持された。2月は低温になったものの、日照に応じた管理の徹底で大きな草勢低下とならなかった。一部で灰色かび病が発生した。

令和6年産のナスは、9月上旬から下旬を中心に定植された。11月まで高温で推移したため、コナジラミ類、ホコリダニ類、ハスモンヨトウ等の害虫が多発したものの、生育は順調で収穫も早まった。12月は着果量が少なかったため、樹勢の低下は見られなかった。1月以降は低温による不良果が見られたが、樹勢の回復とともに改善された。病害虫は、12月から2月には灰色かび病や黒枯病などの病気が発生した。

令和6年産のキュウリは、8月下旬から10月下旬にかけて定植された。11月まで高温で推移したため、軟弱徒長気味の生育となった。1月以降は、低温により草勢が低下し出荷量が減少し、また、2月の低温によりべと病の発生が多かったが、3月中旬以降は気温が高く推移したため出荷量が増加した。病害虫は、ホコリダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類の発生が多く、ウイルス病による被害が発生した。

花 き

盆出しシンテツポウユリは、3月下旬～4月上旬にかけて気温が低かったことから、初期生育が遅れた。その後は十分な降雨があったことから、6月中旬までは順調な生育であったが、梅雨明けが6月27日で例年より早く、7月は高温乾燥の気象条件であったため、切花長が不十分となり、出荷率も例年より低かった。

切り枝は、猛暑により夏場の株枯が多かった。

鉢物リンドウは、全体的に順調な生育で病害虫の発生は少なかったが、梅雨明けが例年より早かったため、発蕾以降の高温の影響により一部農家で開花遅延や生理障害が発生した。需要期である敬老の日(9/15)までの出荷割合は66%で、ほぼ平年並みであった。

花壇苗は、需要期である春季と秋季の生産および出荷は順調であった。一方、梅雨明けから10月上旬にかけては例年より高い温度で推移したため、当該時期の生産では生育障害が多く、9月はハボタン苗においてハイマダラメイガ等による食害も多発した。

果 樹

3月の気温は概ね平年並みで推移したため、ナシやモモ、スモモの開花、カキやキウイフルーツの発芽は平年並みであった。しかし、3月下旬の晩霜により、ナシ及びモモの晩生種やスモモでは結実不良、カキの一部品種では新梢が枯死する被害が発生した。また、5月中旬は降雨と低温の影響により露地のブドウで結実不良が発生した。

梅雨明けが6月27日と平年に比べて早く、7月は高温・乾燥傾向となった。このため、ナシでは早生品種を中心に小玉傾向、ブドウでは縮果症や日焼けが発生した。一方、モモでは腐敗果が少なく、中生品種や晩生品種で収量が増加した。

8月も高温の影響で、カキでは日焼け、ナシやイチジクでは果実の成熟異常が発生した。また、8月9～11日の大雨の影響で、ブドウでは一部園地で裂果が発生した。さらに、夏季の高温による影響でカキ、イチジクでは小玉傾向であった。

カキでは、9月以降も気温が高い時期が長く続いたことから、着色遅れが生じたものの、食味は良好であった。また、10月以降に炭そ病、12月上旬に降霜による「軟果」が発生した。

(2) 令和7年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	目的・結果
大豆	中耕培土が大豆の生育と収量に及ぼす影響	朝倉市 筑前町	乾燥害の影響が大きい近年、中耕培土の効果を再確認するため、土壌区分の異なる管内3か所にて調査を実施した。各生産者にて、収量や土壌区分、猛暑下の労働負荷を踏まえて、中耕培土の有無を総合的に判断するための、ひとつの指標となるデータを収集できた。(収量データはピックスの通り)
大豆	大豆播種法と暗渠栓の開閉が土壌水分と収量・品質に与える影響	筑前町	令和6年度の展示ほにて、乾燥害軽減のためには暗渠の閉栓と部分浅耕—工程播種の組み合わせが有効であると考えられた。しかし、暗渠閉栓時の湿害による生育への悪影響に関する知見は十分ではないため、暗渠栓を閉めた場合のメリットやリスクについて検討した。その結果、今年度の気象条件において、生育期間中暗渠を閉めたままにしても、湿害が発生することはなく、乾燥害の軽減に寄与した。
葉ネギ	遮熱資材の被覆等が葉ネギの高温障害、生育に及ぼす影響	朝倉市	夏季の高温が原因となる葉ネギの発芽・生育不良の発生に対し、遮熱資材を播種から収穫まで被覆または塗布することによる生育への影響を調査した。被覆ハウスでは、徒長気味の生育で1本重は軽くなったものの、晴天日の昼の温度が無被覆と比べて最大3～8℃低下し、生育の揃いが良くなった。
花壇用苗物	フェロモン剤によるヤガ類の被害防止技術の実証	朝倉市	植物や環境への影響の少ないフェロモン剤(コンフューザーV)をハボタン苗ほ場に設置し、ヤガ類の被害防止効果を調査した。設置農家ではアオムシやシンクイムシによる被害はあったが、ヤガ類の発生が無かったため、フェロモン剤によるヤガ類の被害防止効果を明らかにすることが出来なかった。
鉢物 リンドウ	鉢物リンドウ「白寿」における葉先枯れ症対策の実証	朝倉市	葉先枯れの原因はCa欠乏の可能性がある。しかし、石灰資材(炭酸カルシウム)を投入すると培土のpHが上昇し、リンドウの最適pH5.0～5.5を維持できない。そこで、pHを変化させずにCa供給可能な硫酸カルシウムを施用して葉先枯れの軽減効果を検討した。試験区、無処理区ともにすべての株で葉先枯れ症状が発生し、発症度および生育の差は認められず、葉先枯れ症の効果的な対策を明らかにすることはできなかった。
いちじく	施設栽培いちじくにおける農業用遮熱フィルムによる正品果率向上効果の検討	朝倉市	ハウス栽培のいちじくにおける、夏季の高温による成熟異常果や小玉果の発生を軽減するため、遮熱フィルムを展張し熱線透過の軽減効果を検証した。8月中旬までは果実重が増加し収量の増加がみられたが、収穫期間を通して果実の着色が劣る傾向であった。

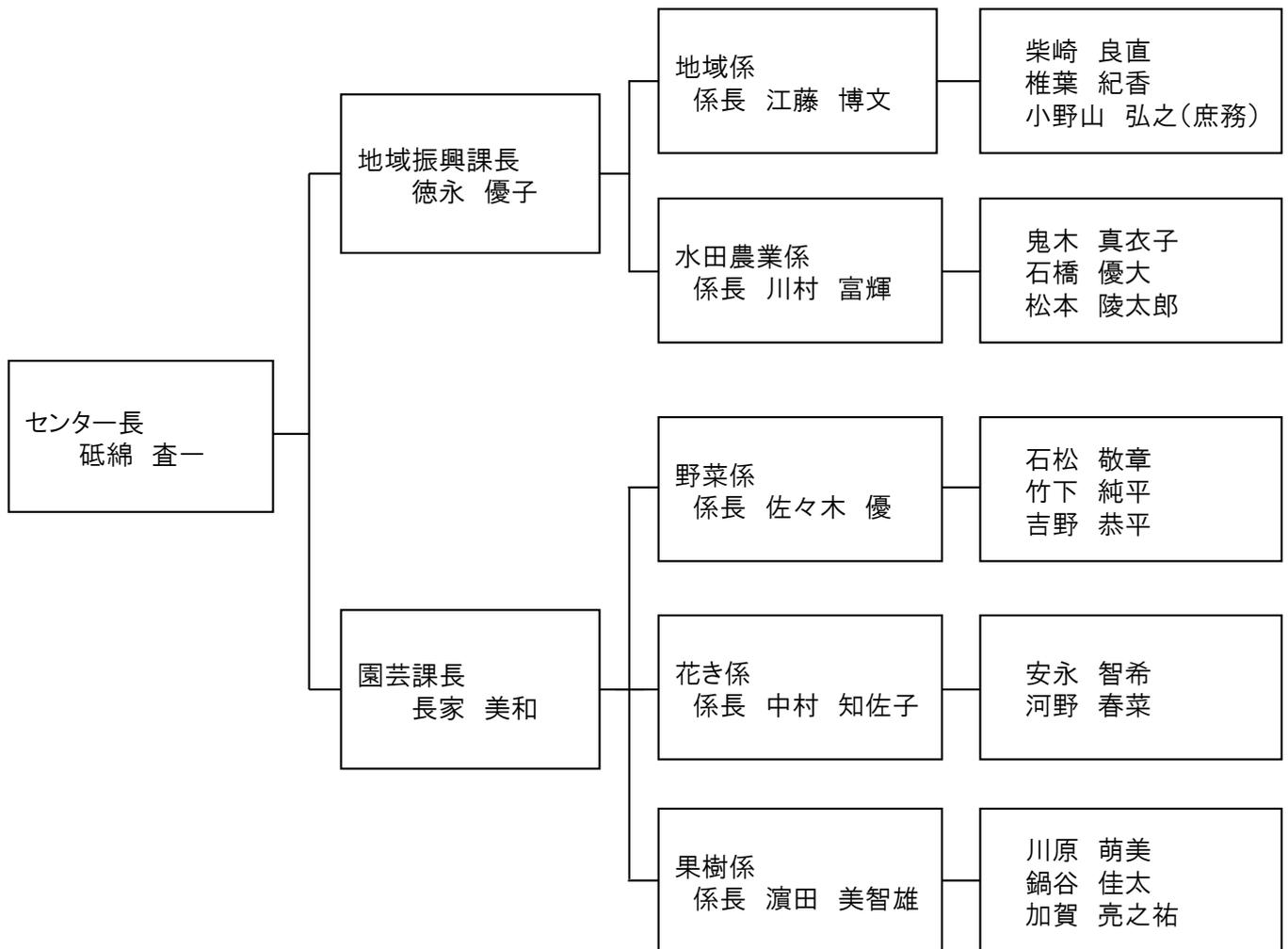
(3) 令和7年度普及指導センター活動情報一覧

令和7年度に当普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係	発行月
1	鉢花生産者のオリジナル商品開発を支援 ～新品種審査会で朝倉の鉢花3品種が入賞～	花き係	4月
2	「あさくら地域4Hクラブ」新たなスタート ～令和7年度総会を開催～	地域係	4月
3	水稻・麦の良質種子生産を目指して ～稲・麦採種部会研修会を開催～	水田農業係	5月
4	地域の農地、次世代へつなぐ！ ～黒川環境保全組合設立総会で新たな一歩～	水田農業係	5月
5	大豆の良質種子生産を目指して ～大豆採種栽培者研修会を開催～	水田農業係	5月
6	新規就農センター閉開講式を開催 ～朝倉地域での就農を目指して～	地域係	6月
7	女性農村アドバイザー視察研修会を開催	地域係	6月
8	カキ「秋王」の管理講習会を開催 ～着果安定のため「環状はく皮」を実施～	果樹係	6月
9	気候変動にまけない大豆づくり ～「部分浅耕一工程播種」で乾燥対策～	水田農業係	7月
10	九州・沖縄地区青年農業者会議で4Hクラブ員が発表 ～経営勉強会での取り組みを紹介～	地域係	7月
11	管内ぶどう生産者を対象とした「着色向上対策講習会」を実施 ～ぶどうの着色対策の推進にむけて～	果樹係	7月
12	鉢花ハウスで「IoT導入支援キット」の実証を開始	花き係	7月
13	朝倉地域農業経営発展研修会を開催 ～雇用の極意について学ぶ～	地域係	7月
14	朝倉地域でケイトウの出荷開始 ～品質向上に向けた取り組みを実施～	花き係	7月
15	朝倉地域普及活動推進部会を開催 ～より良い普及指導活動を目指して～	地域係	8月
16	花苗の夜蛾類対策に性フェロモン剤を試験導入	花き係	8月
17	加工用にんじんの播種前講習会を開催 ～猛暑に負けないにんじん栽培に向けて～	野菜係	9月

No.	タイトル	担当係	発行月
18	鉢花リンドウを県庁等で展示 ～朝倉地域の花のPR活動～	花き係	9月
19	5年後の水田農業の課題についてグループ討議	水田農業係	9月
20	朝倉地域担い手・産地育成協議会 果樹部会で視察研修会を開催 ～朝倉の果樹産地の維持に向けて～	果樹係	10月
21	一日農業バイトアプリを活用した労働力確保	果樹係	10月
22	草場氏と（農）あさくら大角ファームが受賞 ～福岡の麦・大豆づくり生産者研修会で表彰式～	水田農業係	11月
23	朝倉地域担い手・産地育成協議会 水田農業部会研修会 ～RTKを活用したスマート農業～	水田農業係	11月
24	園児を対象に地元産の花を使った花育活動を実施	花き係	11月
25	青年農業者による意見実績発表会を開催	地域係	12月
26	令和7年度朝倉地域「新規就農者のつどい」を開催	地域係	12月
27	一般社団法人ますえの里が設立	野菜係	1月
28	イチゴの病害虫について女性農業者が学ぶ ～いちご部会女性部研修を開催しました～	野菜係	1月
29	花生産者のためのスマホAI活用研修会を開催	花き係	1月
30	植木生産でドローン防除のデモ飛行を初実施	花き係	2月
31	管内ぶどう生産者を対象とした防除暦説明会を実施 ～高品質なぶどうの安定生産と農薬安全使用の推進にむけて～	果樹係	2月
32	いちご若手生産者に向けて視察研修会を開催 ～高収量者のイチゴ作りを学ぶ～	野菜係	2月
33	後付け天窓が夏季のハウスの温度上昇を抑制 ～アスパラガス部会の総会で調査結果を報告しました～	野菜係	2月
34	地域の果樹園を次世代に繋ぐための仕組みづくり ～朝倉市中宮野地区の取組支援～	果樹係	3月
35	水田農業の未来へ！山口県事例から学ぶ朝倉の担い手支援	水田農業係	3月
36	いちごの若手生産者が産地の未来について話し合う ～いちご部会・杷木いちご部会の 若手生産者合同勉強会を開催しました～	野菜係	3月

(4) 普及指導センターの活動体制（令和7年度）



福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703216
登録年度 07	登録番号 0001



- | | | | | |
|--------|-------------|----------|------|--------|
| 普及センター | ライスセンター | 鉢花・花苗・切花 | カキ | 青ネギ |
| 農林事務所 | カントリーエレベーター | 植木・緑化木 | ナシ | イチゴ |
| 市役所、役場 | 小麦採種 | 乳用牛 | ブドウ | キュウリ |
| 農協 | 大豆採種 | 肉用牛 | イチジク | ナス |
| | | 養豚 | ユズ | トマト |
| | | 養鶏 | キズ | チンゲンサイ |
| | | | | アスパラガス |

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026 福岡県朝倉市柿原1110-2

TEL : 0946-22-2551

FAX : 0946-23-1452

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705004/>

E-mail : asakura-dlc@pref.fukuoka.lg.jp